

◎注意事項をよくお読み下さい

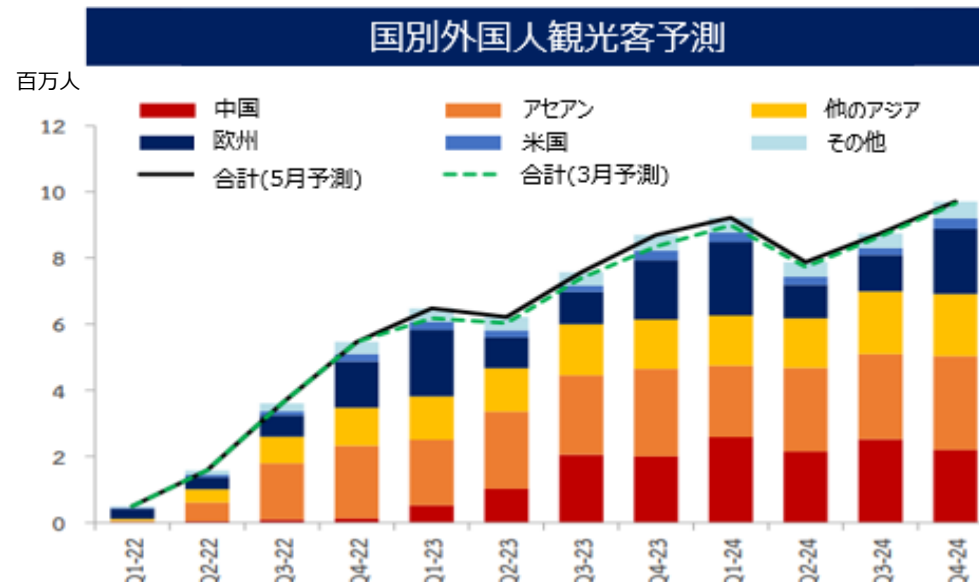


りそな Asia時事フラッシュ

CPI予想下方修正でタイ中銀利上げ休止の可能性が高まった

- 5月31日のタイ中銀会合では市場予想通り0.25%利上げを実施し、政策金利を2.00%に設定した。今回の利上げに当たっては、インフレは鈍化しているものの、観光業と内需主導でタイ経済は回復し需要の圧力と価格転嫁によるインフレリスクは依然としてあるとされた。
- 今回の会合で、タイ中銀は新しい経済指標予測(左下表)を発表。23年、24年のGDP成長率を据え置きにした。タイ観光業が全般的に回復し、雇用と労働収入の改善につながり、国内消費を支えるという認識を示した。経済の上振れリスクについて政府の経済政策を上げた。
- インフレに関しては「電力と原油価格の下落」を受けて大幅に下方修正された。リスク要因についても前回の「需要の圧力と価格転嫁による持続的な高インフレが依然としてリスクである」から、今回は「リスクが存在する」との表現に変更しており、トーンダウンといえる。
- 金融環境への認識は、前回の「緩和的」から今回の「少し緩和的」と変化した。実際、タイのコアCPIは既に政策金利以下になっており、コアCPIがタイ中銀の予想通りに低下していけば、実質金利の上昇を通じて金融政策の引き締め度は強まっていく。
- 以上を踏まえると、次回の8月会合でタイ中銀は利上げを打ち止める可能性が高いといえるだろう。
- タイ中銀の経済予測にあたっては観光業の回復を重視しているとみられる。タイ中銀の国別外国人観光客予測(右下図)では順調な回復が予想されているが、予想を下回る推移となれば景気・インフレに下押し影響が出ると考えられ、タイ中銀の政策スタンスも軟化しやすい。今後タイ中銀のスタンスを占うでは外国人観光客の動向の重要度が高まっている。
- タイバーツを展望すると、タイ中銀への利上げ停止期待が高まる一方、FRBの追加利上げへの警戒が残っている中では、金融政策格差の観点からバーツはやや対ドルで不利となるが、グローバルに観光需要が旺盛な中でサービス収支(旅行収支)の改善は支えであり、バーツは底堅い動きを見せるだろう。対円については日銀の政策修正の後ずれで当面の間堅調に推移するとみる。

主要経済指標	BOT予測	
	2023	2024
GDP成長率(%)	3.6↔	3.8↔
2023年3月時点	3.6	3.8
CPI(%)	2.5 ↓	2.4↔
2023年3月時点	2.9	2.4
コアCPI(%)	2.0 ↓	2.0↔
2023年3月時点	2.4	2.0
輸出(%)	-0.1 ↑	3.6 ↓
2023年3月時点	-0.7	4.3
輸入(%)	0.7 ↓	4.2↔
2023年3月時点	1.2	4.2
外国観光客(万人)	2900 ↑	3550 ↑
2023年3月時点	2800	3500



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。